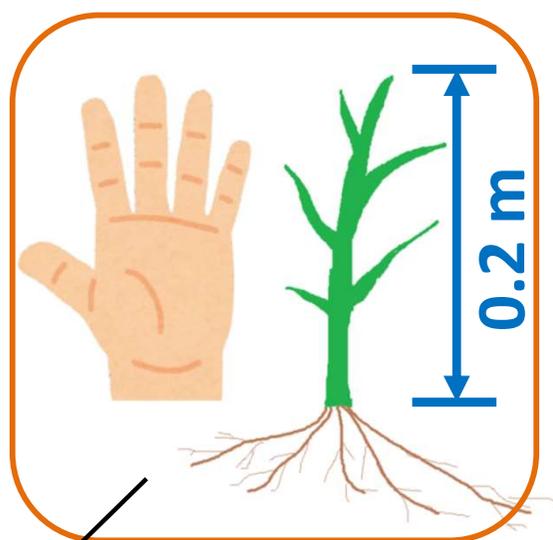


✎ 近年、スギ生産過程に求められる性質



4 挿し木発根率が高い
苗木の安定生産

3 花粉が少ない

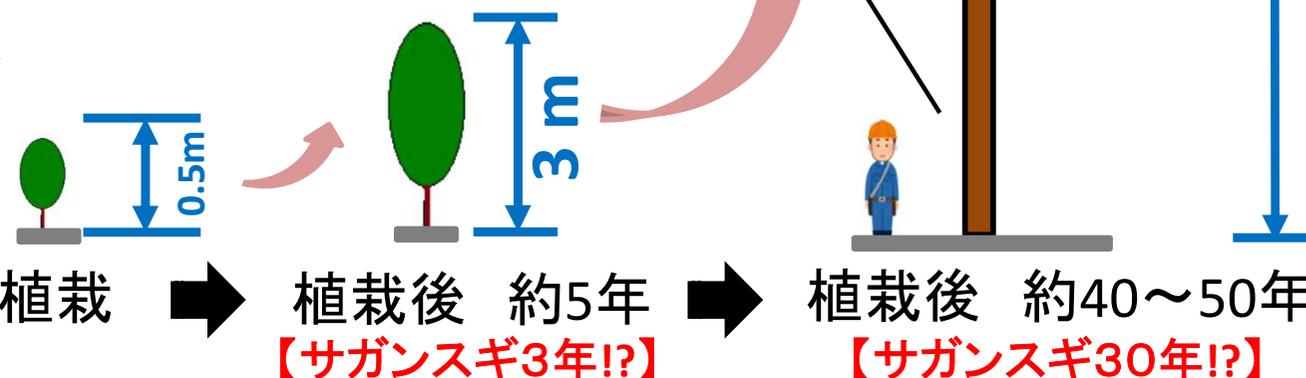
花粉症対策

2 強度が高い

多様な用途に対応

1 成長が早い

下刈コストの低減等



4つの性質を求めたスギが「サガンスギ」

1成長期の途中の樹形比較

サガンスギ



イワオスギ (県佐賀3号)

樹高	1.34 m
岐出枝長	0.59 m
岐出枝長/樹高	44%



佐賀林試2号 (B-74)

樹高	1.52 m
岐出枝長	0.44 m
岐出枝長/樹高	29%

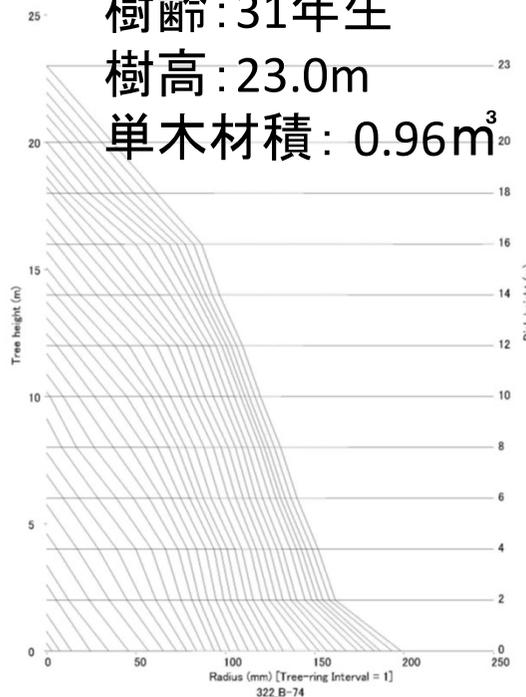


従来品種A

樹高	0.79 m
岐出枝長	0.33 m
岐出枝長/樹高	42%



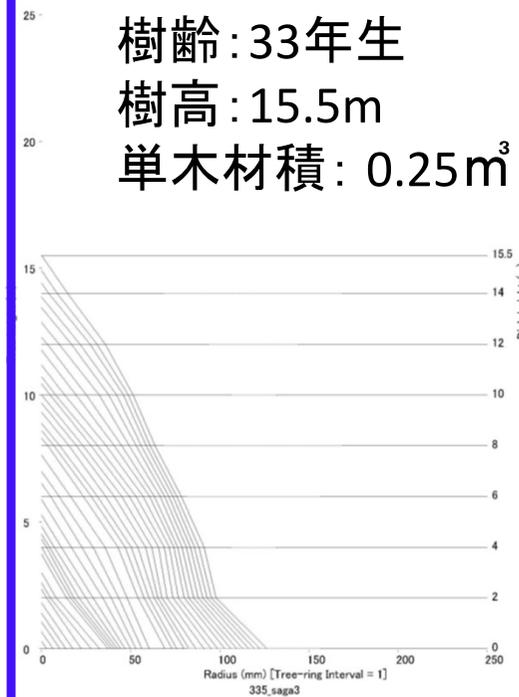
樹齢：31年生
樹高：23.0m
単木材積：0.96m³



サガンスギ (B-74)



樹齢：33年生
樹高：15.5m
単木材積：0.25m³

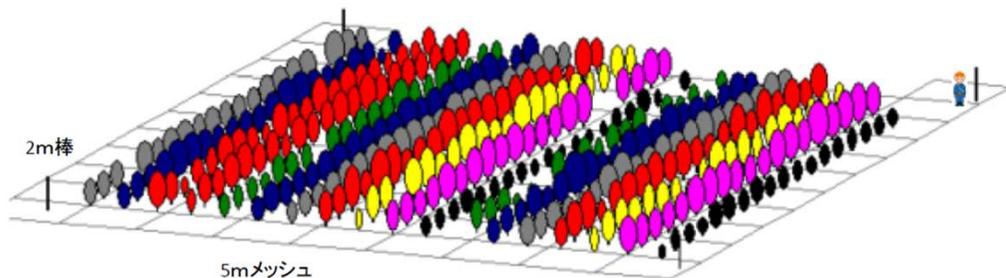


従来品種（従来精英樹）

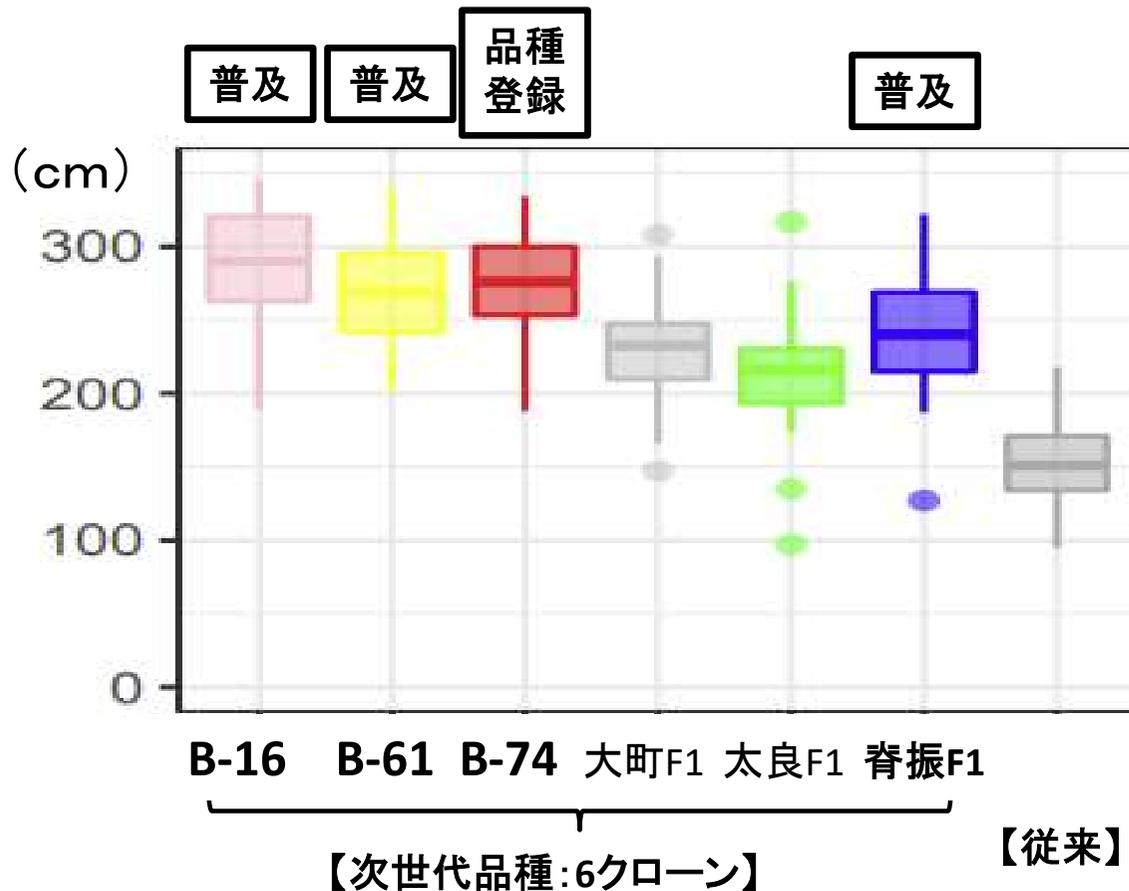
サガンスギ

- ・31年生で樹高23.0m、胸高直径35.0cm、単木材積0.96m³を記録
- ・立地環境が良いと非常に早い成長ができる。

試験地の概況(2018年3月植栽)



3成長期後の樹高
(成長に優れた4品種をサガンスギとして普及)

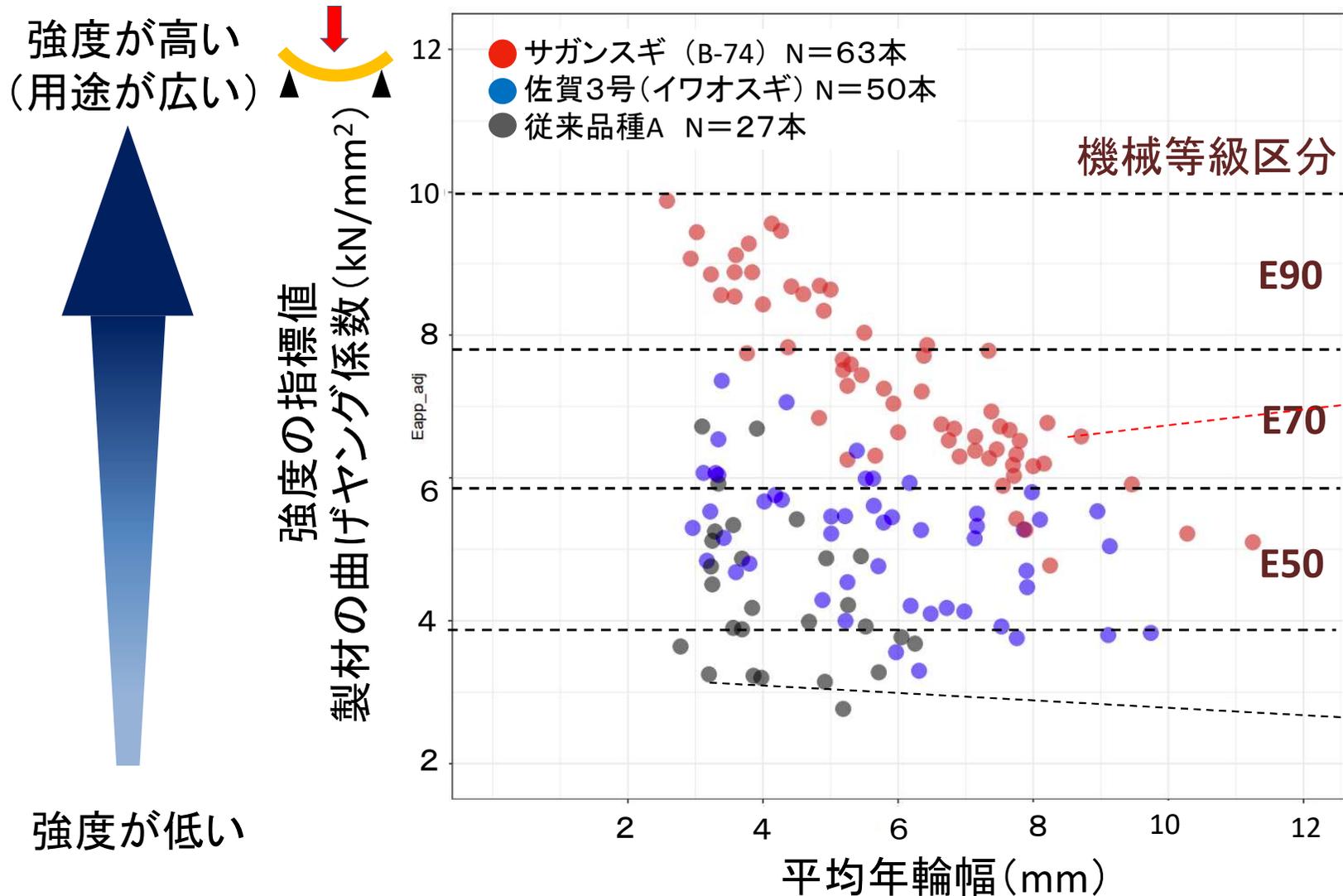


2020年9月時点の現地状況
(3成長期の途中:最大樹高3.4m)



【品種登録現地調査状況】

- ・品種別に成長差がでてきている
- ・3年間で300cmに到達する個体もある



- ・年輪幅だけではなく、品種によって木材強度は大きく異なる
- ・従来品種に比べ、年輪幅が広くてもサガンズギ(B-74)の強度が高い

参加者の感想

国産2×4材を販売しているが品種で何かを決めている訳ではないため、今回のデータを見る限りは問題なく使用できると考えます。（木材関係者）

目視で分かる部分は全く問題ないと思います。試験的な加工をしている段階だと思いますので、実際の量産をした場合にどうなるか検討も必要かと思う。特に大量生産による乾燥条件と変形は気になります。（木材関係者）

年輪幅が大きいと強度的に大丈夫なのかと思っていたが、話を聞いて納得でき今後のために参考になった。（木材関係者）

私達は山で川上での仕事、その材の利用とかどんな流通なのか知らなすぎる。川中、川下でのどんな流れかをもっと知り理解することでこの仕事についての意義ももっと出てくると思った。（林業関係者）



木材強度について解説



見本林



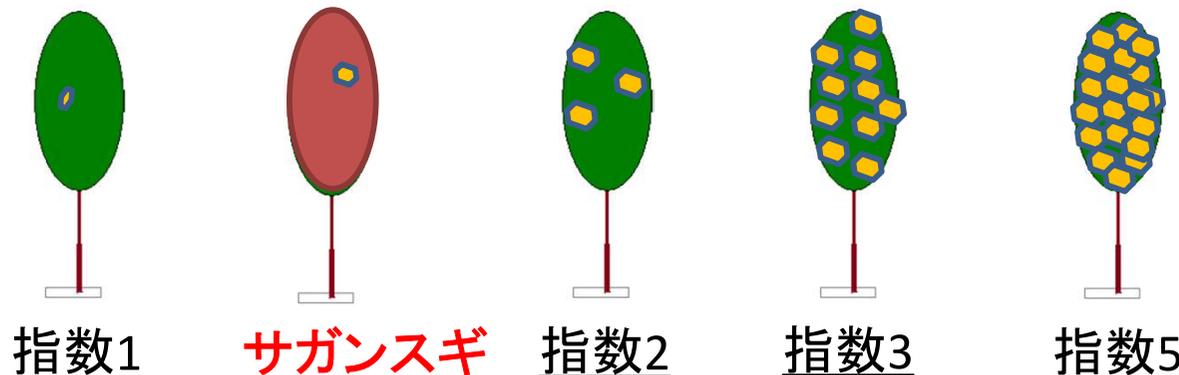
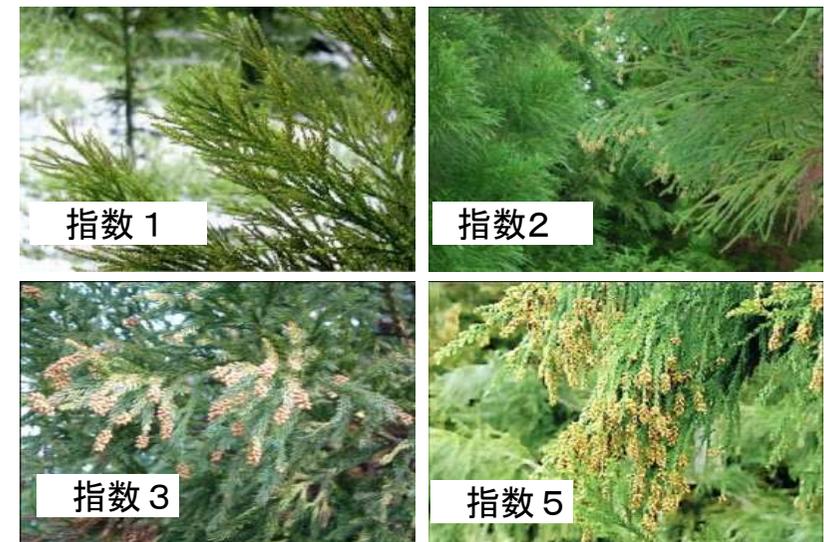
製材品の見学と非破壊による強度測定

- ・サガンスギは、花粉症対策品種である特定母樹と同等（指数2以下）の少花粉性能

品種名	平均雄花着花指数
B-16	1.1～1.2
B-61	1.1～1.2
B-74	1.4～1.6
脊振F1-15	1.5～1.8

※2008～2013年にかけて20年生前後の個体を対象に実施した調査結果に基づく指数。
着花指数については、年変動、場所変動が大きいいためさらに詳細な調査を実施中。

平均雄花着花指数が**1.1～1.8**と低く、花粉飛散量が比較的少ない。



※一般的なスギの半分以下

(通常レベル)

雄花の着花状況の判定基準
(林木育種センター)

